

遺跡に行こう

「埋蔵文化財」という言葉を聞いたことがありますか？

埋蔵文化財とは、私たちのご先祖さまたちの生活の痕跡や、使っていた道具など、土の中に眠っている遺跡や遺物のごとを^{いせき いぶつ}発掘調査のようす(岩清水遺跡⑩)を示す言葉です。これらは、発掘調査などによって、永いながい眠りからようやく目を覚まし、私たちの目の前に姿を現してくれます。

遺跡や遺物と聞くと「難しい…」とか「自分には関係のない大昔のこと」とか、「山梨県にあるの？」などと思うでしょう。でも、本当は見慣れた景色の中に埋もれているだけで、あなたの身近なところにも、大昔のご先祖さまたちが残してくれた「お宝」があるかもしれません。

今回は甲府盆地の南側で発見された遺物や遺跡・古墳を紹介します。

このマップを片手にそんな「お宝」を探しにいきませんか？



曾根丘陵周辺は遺跡の宝庫!

市川三郷町から笛吹市にかけて、いくつもの丘が続いている曾根丘陵の周辺は、見晴らしのよい丘の上や平野部に、遺跡や古墳がたくさん発見されています。それでは、大昔の人々がどんな生活を送っていたのか、簡単に紹介しましょう。



⑩馬乗山1・2号墳

旧石器時代(約 38,000~15,000 年前)は日本列島に人類が住み始めた時代で、狩りなどをして暮らしていました。釈迦堂遺跡①では石器などが見つかっています。

縄文時代(約 15,000~2,300 年前)は、地面を掘って屋根でおおった^{たてあなじゅうきょ}竪穴住居に住み、狩りやドングリなどの木の实などをとって生活していました。一の沢遺跡①や桂野遺跡⑧、釈迦堂遺跡①などは、丘の上に営まれた大きなムラで、^{じょうもんどき}縄文土器・^{どくろ}土偶などが見つかっています。

弥生時代(約 2,300~1,650 年前)になると人々は水田をつくり、^{いなさく}稲作がはじまります。平野部にある^{みあらいざわ}身洗沢遺跡①では、稲作で使用した木製のクワなどが発見されました。また、^{うえ だいら}上の平遺跡⑧などでは大きなお墓である^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓が造られました。

古墳時代(約 1,650~1,300 年前)は、権力者の墓である古墳が丘陵の上や平野部にたくさん造られました。なかでも^{ちやうしつか}銚子塚古墳⑫は、長さが 169 m もあり、東日本でも最大クラスの大きな古墳です。

奈良・平安時代(約 1,300~800 年前)は、仏教が普及し、^{へいじょうきやう}平城京や^{へいあんきやう}平安京などの^{みやこ}都が造られた時代です。この当時の山梨県は「甲斐国」といいました。甲斐国分寺⑨や甲斐国分尼寺⑨などが造られた現在の笛吹市の地域は、甲斐国の中心地でした。

平安時代以降も多数の遺跡が発見されています。なかでも、^{むらまち}室町時代(約 700~400 年前)に造られた^{こやま}小山城⑭は武士たちの戦いを物語る遺跡です。